

市町村名	鳥取市
取組の名称	関係機関と連携した食育の取組～教材としての献立の活用～
1 ねらい	献立を通して、自分の住む地域や他の地域の産物や食文化への理解を深め、生産者や自然の恵みに感謝する心を育む。
2 日時	通年
3 場所	鳥取市内小・中・義務教育学校
4 対象	鳥取市内小・中・義務教育学校児童生徒
5 具体的な取組内容	鳥取市の食のテーマや様々な取組と関連させた献立を提供した。全国的なイベントや市の交流事業など、児童生徒が関わる行事を取り上げることで興味を持ってもらいやすく、給食を楽しみにしている様子がうかがえた。また、地元食材の活用や環境に配慮した献立も取り入れ、給食指導や掲示物、配布物でも紹介した。 姉妹都市交流 姫路市・鳥取市中学生交歓会で「給食コラボ」グループが考案したメニューをアレンジして提供。 とっとりふるさと探検 毎月19日の食育の日に合わせた地産地消の取組として、レシピ動画も作成。食育だよりにQRコードを載せて家庭にも紹介。 【レシピ動画】 〈参加した生徒の感想〉 両市の特産品を知り、特徴や良さを感じてほしいという思いで作成しました。実際に給食として作ってもらい、とても嬉しかったし、給食を作る過程に参加できた気がして、初めての体験に喜びを感じました。 ねんりんピック 鳥取市が会場となる競技の発祥の国にちなみ、フランスの郷土料理が登場。 環食（環境にやさしい食） 野菜の皮や芯も使って食品ロスを削減したり、地元食材を使うことで輸送にかかる排気ガスを削減できることを紹介。 魚の日 毎月10日は魚を使ったメニューを取り入れ、魚を好きになってもらう機会になるよう取り組んでいる。
6 成果と課題	特別感のある献立は、児童生徒にとって魅力ある学校給食として食への関心を高めるきっかけとなった。毎月ある「〇〇の日」は、取組を継続していくことで献立の意図をさらに浸透させることができると感じた。今後も機会を捉えて給食を生きた教材として活用し、食育を推進していきたい。

市町村名	鳥取市
取組の名称	関係機関と連携した食育の取組～食育授業及び交流給食会事業の活用～
1 ねらい 交流給食を通して、地場産物や関西広域連合域内の特産物の良さやその生産等に携わる方々について知り、興味関心を深めることで、食文化への理解や感謝の心を育む。	
2 具体的な取組内容 (1) 地場産物生産者と児童生徒による交流給食会（鳥取市事業） 日時：令和6年9月12日（木） 場所：鳥取市立明德小学校3年生教室 対象：3年児童22名 鳥取県を代表する特産品「砂丘らっきょう」の生産者を招き、明德小学校3年生児童を対象に食育授業及び交流給食会を行った。 食育授業「らっきょう教室」では、生産者とJA関係者の方より砂丘らっきょうの歴史や生産の苦労、収穫の喜びなどの話を聞き、児童は市の特産品をより身近に感じられた様子だった。給食時には一緒に給食を食べながら質問をしたりと交流を深め、児童らも「らっきょう、おいしい!」と言って普段よりも残さず食べようとする様子が見られた。  《らっきょう教室》  《交流給食会》 (2) 関西広域連合域内特産農林水産物の提供事業を活用した食育授業および交流給食会 日時：令和6年10月31日（木） 場所：鳥取市立倉田小学校4年生教室 対象：4年児童21名 鳥取市立第二学校給食センター管内の小中学校15校の学校給食において、大阪府産の「きゅうり」を提供し、倉田小学校4年生児童を対象に、来校した大阪府職員による食育授業及び交流給食会を行った。 児童は実際に使用された大阪府産のきゅうりを味わいながら大阪府職員との交流を深めた。食育授業では、きゅうりの産地や栄養のほかに、大阪の農業の特徴や大阪を代表する特産品、また「粉もん」といった大阪の食文化についても説明やクイズがあり、興味関心が深まった様子がうかがえた。   《食育授業》	
3 成果と課題 交流給食を通して生産者の方々や関係者の話を直接聞いたり質問したりすることで、より身近に感じることができ、地元に誇りや愛着を感じるきっかけになったと同時に、感謝の心を育むことにもつながった。さらには、自分が住んでいる地域を越えて、学校給食を通じて他県の産業や歴史、食文化にふれる機会ができたことは児童にとって有意義な経験となった。今後も鳥取市や関西広域連合の事業を通して、学校給食を活用した食育を進めていきたい。	

市町村名	鳥取市
取組の名称	関係機関と連携した食育の取組～学校給食センター調理員との交流～
1 ねらい	学校給食センター調理員との関わりを通して、学校給食への理解を深めると共に、学校給食に携わる方々への感謝の心を育む。
2 日時	通年
3 場所	鳥取市立明德小学校及び鳥取市内小中学校
4 対象	鳥取市内小中学校児童生徒
5 具体的な取組内容	(1) キャリア教育での講義 6年生のキャリア教育の一環として、調理員が給食センターの仕事内容や必要な資格、やりがい等について講義を行った。調理員の仕事への理解が深まっただけでなく、男性調理員が講義をすることで、男女平等の意識も高まった。 (2) 給食時間の学校訪問 小学校では調理員が教室に出向き、写真や調理器具、パネル等を用いて給食ができるまでの説明を直接行った。中学校では校内放送を活用して、午前中の調理作業から午後の洗浄作業までの説明をし、調理員の仕事の苦労や生徒への思いを伝えた。 (3) 委員会活動との連携 保健給食委員会が主催した食に関する発表集会において、児童と調理員とのコラボ発表を行った。その後の豆つまみりレー大会にも参加し、正しい箸の持ち方指導を調理員が行った。
6 成果と課題	普段は関わりの少ない児童と調理員との交流は、互いの心に良い影響を及ぼす貴重な体験であった。特に取組の中心となった明德小学校では給食残量が他校に比べて少なく、感謝の心が育まれているように感じる。今後は更に第一センター管内の小中学校での交流の機会を増やしていきたい。



【調理員から児童へのメッセージ】



【給食センターの様子を画面表示】